

あれから 50年

小諸市最大級の災害 6.16集中豪雨災害

昭和42年6月16日夕刻に小諸市を襲った
「集中豪雨災害」。

北大井地区を中心に襲った豪雨は、市内
の至る所で甚大な被害をもたらし、死者が
出る最悪の結果となった。

【災害当日の市役所宿直者の手記引用】

17時50分頃より雷雲にわかになり、18
時20分頃よりポツンポツンと降り始めた雨。
19時10分頃より雷雨は異常に激しく無気
味な様相となり、雷をともしない、ますます
激しくなる。そのありさまは、ちよどバ
ケツで水を空けるようで、雷鳴は耳を覆う
ばかりのすごさである。

19時50分頃に至り、それまで断続的に停
電していた市役所の電灯もついに消え、雷
光が瞬間的に室内を真昼のように照らす。
窓より外を見ると、一面川のように濁流が
流れている。

20時15分頃、これまで鳴りやんでいた電
話のベルが激しく鳴った。早速、手にした
受話器より興奮した声がかん高く「御幸町
の用水が溢れて家が流されそうだ」という
災害第一報が入る。

その後、宿直室にある3つの電話のベル
は一斉に鳴り、刻々と入る情報は、荒れ狂
った水により、家、道路、橋、農地等の被
害が次々に伝わり、国道18号線の平原地籍
は腰までつかる濁流で、車両は通行不能と
なり、道路は各地で寸断され、交通はマヒ
状態に陥り、未曾有の大災害となった。

※写真中央、河川の氾濫により橋が壊れ、
流されている。